

コロナ禍における生活に関するアンケート結果

医療法人社団至空会相談支援センターだんだん 川嶋章記

要旨

私の勤務する医療法人社団至空会（以下、当法人）は幼児期から壮年期を主に精神科クリニック 2 ケ所、多機能型事業所 2 ケ所、宿泊型自立訓練、グループホーム 4 ケ所、障害者就業・生活支援センター、浜松市障害者就労支援センター、浜松市障がい者相談支援センター等、ライフステージの中でメンタルヘルスの諸課題に対応できる機能を持つ多機能型診療所として浜松市を中心に事業展開をしている。今回、私が所属する当法人福祉部門の新型コロナウイルス感染対策及び対応と利用者がどのような状況に置かれていたかを明らかにするため、当法人の福祉部門にある、多機能型事業所だんだん、多機能型事業所ひだまりのみちの利用者から「コロナ禍における生活に関するアンケート」を実施し、利用者からの意見をもとに考察することとした。

1 目的

当法人福祉部門の新型コロナウイルス感染対策及び対応と利用者がどのような状況に置かれていたかを明らかにするため。

2 方法

WEB またはアンケート用紙により実施。アンケート依頼文には、論文、発表資料として使用すること、無記名回答で個人が特定されるような記載はしないことを明記し、アンケートの回答をもって同意したものとした。

3 結果

回答者は 72 名（男性 47 名、女性 25 名）。
（質問項目）

①現在、利用している医療及び福祉サービス、②新型コロナウイルスについてどこから情報を得たか、③コロナワクチン接種、④コロナ前と比べ体、気持ち、環境の変化、⑤コロナ禍で皆さんが利用している医療及び福祉サービスの職員の関わりで助かったこと、⑥5月8日にコロナの行動制限が緩和された後、楽しかったこと、うれしかったこと、⑦コロナ禍を経験して改めて大事だと感じた。⑤の結果では、新型コロナウイルスについて正しい情報を提供してくれた、健康や生活についての不安を聴いてくれたについて回答が多かった。自宅静養の時に電話をしてくれた 20 名、自宅静養の時に食べ物や飲み物を差し入れしてくれた 6 名と回答があり、これは代替サービスとして提供したものと思われる。

4 考察

多機能型診療所の強みを活かし、コロナワク

チン接種を、より多くの患者さん、利用者さんの接種ニーズに対応するため、1 接種ごとに複数回集団接種を実施した。すべての方が接種を希望した訳ではないが、関係構築の出来ている職員からの呼びかけと接種についての説明。副反応の相談等にも応じてもらえることで、継続接種者が多かったと思われる。コロナ禍では厚生労働省や浜松市の通知をもとに、利用自粛している方へ代替サービスを提供した。関係性の維持や困りごとへの対応等ができ、一定の効果があつたのではないかとと思われる。

5 まとめ

コロナ禍では多くの情報を精査し、利用者にとって法人運営にとって何が最善なのか、発想力と想像力を求められる期間だった。当法人では、他部署との対面での会議を減らし、ZOOM 等のオンラインで実施することはもちろん、ICT を活用して情報共有や勉強会も開催する機会となった。現在は対面、非対面、それぞれのプラス、マイナスや効率性を考慮し使い分けることで、業務実施方法の選択肢が広がっている。上記のように ICT の特性を理解し、上手に活用することで、業務の見直しと効率化に繋げることができる。対人援助を生業とする精神保健福祉士としては、試行錯誤の連続であつたが、人との関わりの中で感じる優しさや温もり繋がり、は、コロナ禍という非対面の経験があつたからこそ、対面で接する重要性を再認識することができた。当たり前の生活を送ることができる喜びを忘れず、これからも業務に励んでいきたい。